

令和 5 年度 県立鉾田第二高等学校自己評価表

目指す学校像	課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学びと、将来を見据えた系統的なキャリア教育を充実させて、一人一人が希望する進路の実現を図るとともに、地域社会との連携を推進し、地域振興に貢献するリーダーとなる人材を育成する地域に信頼される学校。				
三つの方針		具体的目標			
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	・多様な人々と協働して課題解決していくための思考力・判断力・表現力を育成する。 ・地域社会との連携を推進し、主体的に地域の活性化や振興に貢献する人材を育成する。			
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	・授業等で、ＩＣＴ端末を積極的に活用して、学力向上を図る。 ・学校の教育活動全体で、生徒の自律心、人間関係調整能力、思いやりの心などを育成する。 ・体系的な進路指導の体制を構築して、生徒一人一人の希望する進路を実現する。			
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	・主体的に他者と協働して学習・活動した経験がある、あるいは、意欲のある生徒。 ・希望する進路実現を目指して、継続的かつ計画的に取り組むことができる生徒。			
昨年度（令和４年度）の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況	
・農業科・食品技術科・総合学科ともに専門的な学習を生かした活動や地域と連携した活動に取り組んでいる。 ・一人一台端末を使用して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をさらに進める必要がある。 ・進路指導では、４年制大学から専門学校まで多様な進路希望に対応できる進学指導体制を構築する必要がある。 ・就職指導では、生徒が自分の適性を理解して、希望する就職先を主体的に決められるよう指導していく必要がある。 ・中学生や保護者に向けて教育活動を積極的に情報発信して、教育内容等の周知・理解促進が重要になっている。 ・働き方改革の推進では、教職員一人一人が恒常的に業務を見直し、引き続き、業務の効率化を図っていく必要がある。 ・生徒指導では、学校の教育活動全体で、生徒の自律心、人間関係調整能力、思いやりの心等を育成する必要がある。		特色ある学校づくり	・系列の専門的な学習を生かした取組や農業の６次産業化の学習など学校の特色づくりを進める。 ・学校行事等で、地域との連携や、各系列・学科の連携による学びの相乗効果を図る。	B	
		授業改善の推進	・毎時間の授業において、一人一台端末を使用する。 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を進めるとともに、基礎学力の向上を図る。 ・生徒の授業満足度の校内平均値の目標を、３.５以上とする。	B	
		希望進路の実現	・キャリア・パスポートを活用して、主体的に学びに向かう力を育てる。 ・生徒一人一人が自分の適性を理解して、早期に進路を決定して、希望する進路の実現を図る。	A	
		教育活動などの積極的な情報発信	・年間１０回の新聞掲載を目標にしてマスコミに取材依頼する。 ・学校ホームページの教育活動や部活動等の記事を、適宜更新する。	A	
		働き方改革の推進	・教職員一人一人の業務について、見直し・工夫・改善・効率化を図り、負担軽減に努める。 ・会議の削減を図るとともに、完全退勤時間・定時退勤日を設定して、履行に努める。 ・１ヶ月あたりの時間外勤務４５時間以内の実現を目指して、働き方改革を進める。	B	
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度（学期）への主な課題
学校全体 共通の取組	特色ある学校づくり	・授業での学習を生かして地域と連携した取り組みを推進する（インターンシップ、地域貢献活動、販売実習など）。		A	活動の事前・事後指導の充実。
		・専門教科では、学習分野の学習と連携した資格取得を推進する（教科「商業、家庭、福祉、農業など」）。		B	各検定の上位級の合格者の増加。
		・共通教科では、基礎学力向上につながる資格取得を推進する（教科「国語、数学、英語など」）。		B	各検定の受検者・合格者の増加。
	授業改善の推進	・ＩＣＴ（一人一台端末など）を積極的に活用して、授業改善を進める（協働的な学び、資料提供、課題提出など）。		B	ICT スキルの共有と向上。
		・県教育研修センター研究指定校（令和５年度・令和６年度）として、ＩＣＴ（一人一台端末など）を活用した体系的なキャリア教育の研究に取り組む。特に「総合的な探究の時間」の授業改善につなげる。 ・授業を通して、生徒が学ぶ楽しさを実感して、意欲的・自主的に学習に取り組む姿勢・態度を育成する。		B	研究成果の共有と授業改善につなげる方法を検討。「学ぶ楽しさ」のよりよい伝え方を検討する。

別紙様式2 (高)

教科指導	国語	基礎学力の向上	・生徒の学習実態の把握に努め、個に応じた指導の充実を図る。	A	A	・日常生活、社会生活で必要となる言語能力の向上。 ・適切な評価方法や評価規準の設定と担当者間の共有。 ・ICTを含めた指導方法の充実。
			・各科目で適切な言語活動を設定し、進路実現や社会生活に求められる表現力を育成する。	B		
			・副教材を活用し、各学年・年次と連携して生徒の語彙力向上に努め、資格取得を促す。	A		
		わかる授業への取組	・ICT機器を活用するとともに、教員間で効果的な指導方法や有用な教材の情報交換に努めたり、各種研修に参加したりする。	A		
			・教材や指導内容を精選して授業を進めるとともに、学習指導後の振り返りを行い指導の改善を図る。	A		
	地歴公民	基礎学力の向上	・定期的な確認テスト・小テストの実施や課題学習を通し、基礎学力の充実・定着化を図ると共に、自学自習の確立を図る。	A	A	・ICT機器を活用した授業展開。 ・自発的な活動を促す授業展開。 ・基礎学力の向上。
			・学習内容を理解させるため、きめ細かな指導を行うとともに、適宜質問の時間を設ける。	B		
		わかる授業への工夫改善	・教材研究の充実により、学習内容の精選及び明確化を徹底する。	A		
		進路に応じた指導の充実	・定期考査問題の内容への配慮及び課外・補習等の実施により、生徒の進路希望に応じた学習指導に努める。	A		
	数学	基礎学力の向上	・生徒の特性をふまえて教科書の精選を図り、個に応じた指導を図る。	A	B	・生徒が1人1台所有しているタブレットを効果的に活用した授業の展開を工夫する。
			・学習内容の理解を深めるため、生徒が問題を考察する時間を確保し基礎的な学力の定着を図る。	B		
			・アクティブ・ラーニング的な手法を取り入れ、ICT（タブレット・電子黒板など）の活用を推進し、生徒たちが主体的に学べるような授業を展開し、学習意欲を向上させる。	B		
			・課題を定期的に点検し、家庭学習の習慣をつける。	B		
		進路に応じた指導の充実	・個々の進路希望に応じた課題等を与える。	A		
			・学校設定科目において、生徒の進路希望に応じて、指導内容等を工夫し指導にあたる。	A		
			・教科内の連携を図り、新課程で変化した箇所を中心に指導方法を共有する。 ・また、評価方法についての共通理解を図る。	B		
	理科	基礎学力の定着	・生徒の学習の理解度に応じたきめ細かい指導を行う。	A	B	・自然科学全般への興味関心を引き出す工夫や、継続的な実験の実施など、来年度以降も積極的な取り組みが必要である。
			・学習の理解を深めるために実験・観察を行い、生徒の興味・関心を高める。	B		
			・成績が不振な生徒に補習を実施して学力の定着を図る。	A		
			・定期的に課題を提出させることにより、家庭学習習慣を定着化させる。	B		
		進路目的を達成するための学習指導	・学校設定科目等の実施により、生徒の進路に沿った指導を行う。	A		
			・進路実現のための課外授業を実施する。	B		
	保健体育	運動技能の向上	・生徒一人一人に新課程に適した課題を設定し、計画的に運動を実践する。	A	B	・体育の実技授業でのICT活用。 そのために体育館のwi-fi環境の整備を望む。
			・体づくり運動やランニングなどの補強運動を取り入れながら実施する。	A		
		構成・協力・責任などの態度の育成	・互いにゲームのルールや技能を教え合える雰囲気作りをする。	B		
			・集団行動の重要性を理解し、他者と協力しやりとげる能力を育成する。	B		
			・能力に応じて、仲間と安全に留意して行えるルールを設定する。	B		
		生涯を通じて健康的に生活できる資質や能力の育成	・ICTの活用による資料や事例の提示を通して健康的に生活するための資質能力を育成する。	B		
			・学校行事等を利用して、生涯を通じて運動に取り組む資質を育成する。	A		
	芸術	教材の精選・研究と指導の工夫改善	・芸術を愛好する心情を養い、生徒の個性を生かせる教材の選択・研究を行う。	A	A	・教材の精選、ICT活用に必要な設備の整備。
			・主体的な学習活動の指導を研究・実践する。	A		

別紙様式 2 (高)

教科指導	英語	授業の工夫・改善	・ICTを活用し生徒の意欲や関心を引き出すと共に、英語力向上に繋がる実践的な活動を工夫する。	B	B	・教科内での評価規準を明確化する。教科内で共通理解を図り、統一した評価を行う。 ・ICTを活用した授業展開を工夫する。
			・観点別評価について教科で協議し、評価の統一を図る。CAN-DOリストを活用した授業を展開する。	B		
		基礎学力の向上	・習熟の不十分な生徒に対し、課題を与え、補習を実施する。	A		
			・放課後課外や模試対策等を行い、基礎学力の向上を図る。	A		
	家庭	資格取得等の支援	・英語検定への受験を勧め、1次試験事前課外、2次試験面接指導を行う。	B	A	・来年度も引き続き、指導方法や評価方法等について、教科内の共通理解の徹底を図る。 ・ICTを有効的に活用した授業を展開できるようにする。
			・大学入試対応のスコア獲得のためのGTECの受験をすすめ、対策を講じる。			
			・教科内での共通理解を図り、わかりやすく統一された授業を展開する。			
		基礎的・基本的な知識と技能(技術)の習得	・評価規準を明確にし、観点別に評価を行う。	A		
			・段階見本の作成・活用やICTの活用等の教科内研修による指導力の向上により、知識と技能(技術)の確実な定着を図る。	B		
		地域との連携	・銚田市と連携した授業展開を行い、学びを地域還元する活動を実施する。	A		
	情報	安全で衛生的な実習環境の整備	・施設・設備の定期的な清掃と点検を実施し、安全衛生管理を徹底する。	A	A	・教科情報の学習内容について、生徒がより生徒が興味・関心をもてるよう指導方法を工夫していく必要がある。
			・個人の学習理解度を把握し、きめ細かな指導を実施し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。	B		
			・問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。	A		
		情報モラルの育成	・法規や制度及びマナーを守ろうとする態度、情報セキュリティを確保しようとする態度などの情報モラルを養う。	A		
	農業	基礎的・基本的な知識や技術の習得	・生徒一人一人の多様な個性及び理解度に応じた授業と実験実習を展開し、基礎・基本を大切にしたいわかりやすい指導方法の確立に努める。	A	B	・販売会を積極的に実施する。 ・個に対応した指導を行い、生徒の実力をさらに伸ばすよう工夫していく。 ・事故防止に努めるため、KY(危険予知)活動を行う。
			・プロジェクト学習を主にした体系的な実験実習を取り入れ、生徒の知識・技術の定着を図り、人間性豊かな職業人育成を目指す。	B		
		事故防止の徹底	・農場や実験室の環境整備並びに施設・設備や農業機械の点検整備を充実させる。	A		
			・安全教育を主とした授業や実験実習を展開し、事故及びヒヤリ・ハットの防止に努める。	B		
		資格取得の推進	・生徒の目的意識を高め、小型車両系建設機械、フォークリフト等の資格取得を支援する。	A		
		環境教育の実践	・ポジティブリスト制度や農業生産行程管理(GAP)に沿った授業や実験実習を展開し、安心・安全な農産物の栽培法を定着させる。	B		
	食品技術	知識・技術の習得	・基礎・基本を大切に、一人一人に対して、わかりやすい指導方法の確立に努める。	B	B	・ICTを活用した授業・実習を進める。
			・タブレットなどを効果的に活用し、生徒の知識・技術の定着を図る。			
		事故防止の徹底	・生徒の安全に配慮した実験・実習を展開する。また、食品衛生に徹した実習を実践する。			
	商業	資格取得の推進	・生徒の目的意識を高め、「危険物取扱者試験」等の資格取得を支援する。	B	A	・資格取得を奨励し、今年度よりも高い合格率を目標にする。
		基礎的・基本的な知識の習得	・学習の理解度に応じてきめ細かな指導や補習を実施し、基礎的・基本的知識の定着を図る。	A		
		資格取得の奨励	・学習の成果として、資格取得を奨励し、合格率の向上を図る。	A		
	福祉	職業観の育成	・商業、農業の科目を履修し、6次産業について理解を深め、地域に貢献できる人材を育成する。	A	A	・受入先の施設との打合せや準備を徹底して実習を充実させる。 ・ICTのさらなる活用を図る。
		基礎的な知識と介護技術の習得	・主体的・対話的な授業展開を実践するため、ICT等を活用し学習内容や方法を再検討する。	A		
			・実習の事前・事後指導を徹底し、実習の成果を発表させることで、事後の学習に反映させる。	A		
	福祉	実習を通した実践的な態度と職業観の育成	・施設実習を通して、職業観や健康管理・マナー・礼節の大切さを身につけさせる。	B		

別紙様式 2 (高)

教務	各科・系列の特色を生かした教育課程の検討と運営	・本校の現状の課題の洗い出しを進め、これからの本校の目指す教育課程を検討する。	A	A	・より効率的な学校運営を図る。 ・ホームページの活用方法について検討する。
		・GIGAスクール委員会と連携し、端末等を効率的に活用できる環境を整える。	A		
		・「総合学科」の生徒の履修計画の一助となるよう「産業社会と人間 学習ノート」を編集し直し、効果的に活用する。	B		
	生徒が自己実現を果たせる時間割の編成	・学年・年次との情報交換を密にし、生徒の進路実現を目指した時間割の編成をおこなう。	A		
		・時間割編成についての研修をととして職員の共通理解を図る。	A		
	開かれた学校を目指し地域への情報発信	・ホームページ更新回数を増やし、各種媒体へ情報を提供し本校の活動状況を地域に発信する。	B		
		・桜芳祭・緑苑祭をはじめ公開授業や学校説明会を工夫し、その内容の充実に努めて、回数を増やす。	A		
情報	一人一台端末の活用、情報機器の管理	・効率的に端末を用いて授業が行えるよう、情報提供を進める。 ・アカウント設定を行い、初期設定を含めサポートを行う。 ・ハード及びソフトの情報把握を適切に行う。	A	A	・ICT活用のスキルアップのために、校内研修のより一層の充実に努める。 ・ハード及びソフトの管理に適切に対応する。
	校務支援システムの管理・運営	・情報更新を逐次行う。 ・校務支援システムの使用法問い合わせに対し適切に対処し、及び職員のスキルアップに努める。 ・教務部と連携し、時間割等の構築を適切に進める。	A		
	教育情報ネットワークの管理・運営	・本校ホームページの更新頻度を上げられるよう、呼びかけを行う。 ・情報リテラシーについての講習を行い、情報資産の重要性について職員の意識向上に努める。	B		
生徒指導	基本的生活習慣の確立及び自己指導能力の育成（校内外でのマナーの向上）	・遅刻ゼロ運動を継続する。段階的な指導を徹底する。スマホ・携帯のマナーを徹底する。	B	B	・基本的生活習慣の確立及びマナーの向上。 ・SNSによるトラブル防止。 ・交通事故防止の指導の徹底（原付、自転車等）。
		・登下校指導による、挨拶の励行及び服装指導等を行う。校外においても制服を正しく着用させる指導の徹底を図る。また、公共の場所において正しい判断のもと行動できるようにする。	B		
	自転車・原付バイクや四輪車の安全指導	・原付バイク運転実技講習会や交通講話、安全点検を実施し、交通事故の悲惨さや運転手の責務等について認識させ、交通ルールを遵守させるとともに、交通事故の未然防止及び安全指導を行う。	A		
	SNS等のいじめ・誹謗中傷防止・早期発見	・いじめはどの生徒にも起こりうる問題であることを十分認識し、生徒の変化を注意深く観察し、声かけをして相談しやすい関係をつくる。	B		
特別活動	特別活動の活性化と自発的活動の促進	・生徒会活動や委員会活動の活性化。生徒達が積極的に活動できるような環境をつくる。各委員会が、年間計画案に基づき活動する。	A	B	・生徒が学校行事について主体的に計画、運営できるような環境を整える。 ・部活動のあり方について整理していく。 ・ボランティアへの参加について年間を通じて促していく。
	積極的な部活動への参加と部活動環境の整備	・部活動加入率を高めるため、新入生の年度当初の見学会に必ず行かせることと、教員側も積極的な呼びかけをし、部員確保に努め活発な活動を図る。	B		
	学校行事の活性化と積極的なボランティア活動への参加促進	・施設、用具の充実に図り、運動部・文化部がより良い活動が行えるようにする。	B		
		・仲間への思いやりや、集団の中での自己の役割を理解し、お互いに協力し合える態度を身につけさせる。	A		
		・学校行事それぞれの意義を理解させ、すべての生徒が積極的な参加を目的とした指導を展開し、各行事の成功へと結びつける。	B		
		・各種のボランティア活動参加募集の告知を徹底し、積極的な参加を促すようにする。	A		
	キャリア・パスポートの活用	・自己の活動や成長を確認できるようなキャリア・パスポートを作成していく。 ・自己実現に向けて将来への見通しや展望を図り、自己のキャリア形成に生かす態度を育成する。	B		

別紙様式2（高）

進路指導	進路希望実現に向けた 進学、就職指導の充実	・進学希望者対象の課外授業や土曜講座を充実させ、ICTを活用して高い学力の育成を図る。	A	B	・進路意識の涵養のための系統的な指導をする。 ・就職希望者の就職試験に向けて基礎学力を向上させる。 ・ICTを活用して、学習習慣の定着を図り、基礎学力の向上を図る。 ・探究活動の一環として資格取得を促す。
		・就職希望者に対する面談指導を徹底するとともに、課外授業を充実させICTを活用して基礎力の向上を図る。	B		
		・生徒が主体となった活動への参加を促し、コミュニケーション能力の向上を図る。	B		
	キャリア教育による進路意識の高揚	・進路講演会・出前授業等、効果的な進路行事の立案・実施に努める。	A		
		・各種の資格取得を短期目標に据えさせることにより、進路意識の高揚を図る。	B		
		・各種の職場体験等のキャリア教育の取り組みを通して、健全な職業観・勤労観の育成を図る。	B		
	進路に係るガイダンス、 カウンセリング機能の 充実	・進学・就職ガイダンスを実施して、進路に対する積極的な意識付けを図る。	A		
		・個別面談を充実させ、進路目標の随時見直しを図る。	A		
		・ICTを活用して生徒・保護者へ提供する進路情報の内容充実に努める。	B		
保健厚生	環境美化の維持	・定期的な安全点検や日々の清掃指導の徹底を図って校舎内外の安全・美化の実現に努める。	A	B	・安全かつ健康に学校生活を送れるよう、安全の確保・保健衛生・学校環境美化に努める。
	自己健康管理能力の育成	・疾病・感染症予防、日常生活における健康増進等について保健だよりを発行し、生徒の心身の健康に関する知識、管理能力を高め、生徒自身が健康的な生活に取り組める態度や能力を育成する。	B		
	緊急時の対応能力の育成	・防災避難訓練をとおして訓練の必要性を認識させると共に、主体的な危機回避能力を育成する。 ・心肺蘇生およびAEDの教職員研修を実施し、緊急時に対応できる資質を養成する。	B		
図書	図書委員会活動の活性化	・委員会の定例化をすすめ、係ごとの活動を円滑に行う。	A	B	・各教科や総合的な探究の時間で利用できる書籍を各担当と連携して提供していく。 ・昼休みや放課後に他の校務が入ると図書館業務に専念できないので、専任の学校司書の配置を希望する。
		・スタッフマニュアルをもとに図書委員すべてが役割を自覚し積極的に活動する。 (図書だよりの発行・館内ディスプレイや展示の工夫・蔵書点検など)	A		
	図書館の利用・活用の 推進	・教科・年次(学年)・他分掌との連携により、読書活動を啓発して貸出数を増やす。	B		
		・配架・案内表示などの館内の環境を整備する。	A		
		・購入希望図書の調査を実施する(教員・生徒)。映像資料を充実させる。	A		
		・教育課程の展開に即応した資料や進路関連図書の充実を図る。	B		
	図書部運営の円滑化	・スタッフマニュアルをもとに担当職員すべてが係の仕事に関わる。 ・学校司書の配置。	C		
渉外	学校・家庭・地域社会・ 関係機関との連携	・各委員会活動・ホームページ等を通し、生徒・学校の活動状況を理解してもらい、家庭・役員・地域社会・関係機関の学校への関心や協力体制を高める。また、後援会の援助体制を有効に活用する。	B	B	・創立100周年記念事業の成功へ向けて協力を依頼していく。
教育相談	スクールカウンセラー (SC)を活用した教育 相談体制の充実	・教員間の連携を密にし、生徒が抱える問題を早期に見出し、指導方針を立て対応するように努める。	B	A	・教員間の円滑な情報共有。 ・いじめ、友人関係のトラブルの未然防止を図る。 ・生徒対応に役立つ教員研修会を実施する。
		・SCと教員の連携や情報共有が円滑に行える体制の確立を図る。	A		
		・「教育相談だより」を発行し、生徒や保護者にSC配置の相談室を知らせるとともに、気軽に利用できる相談室の整備に努める。	A		
	教育相談における教員 の資質や能力の向上	・教育相談に関する情報の提供と、校内研修会の充実を図る。	A		
		・教員の相談室利用を促し、SCとの相談や助言を通して、生徒への関わり方などについて改めて考え学ぶ機会の確保に努める。	B		

別紙様式 2 (高)

農 場 部	基礎的、基本的な知識と技術・実践力習得	・体験的教育活動をとおして、勤労意欲の醸成と基礎的な知識及び技術に基づく実践的な能力態度を育成する。	A	A	・農産物・加工品の販売方法を工夫していく（イベント等への参加を含む）。 ・スマート農業に関する学習内容を授業に取り入れていく。
	農業クラブ関係行事や校内外の各種行事への積極的参加	・農業教育の対外的な活動を通し、専門教育の成果を広報するとともに、各種イベントへの参加などにおいて地域社会との連携を図り、生徒の社会的資質向上に努める。	A		
		・体験的専門教育を基とした学校農業クラブ活動を実践し、科学性・社会性・指導性の醸成を図る。	A		
	農業専門教育の充実	・スマート農業の動向に対応した指導を目指し、積極的に研修へ参加し教職員の更なる資質向上に努める。	B		
1 学年 ・ 年次	基本的生活習慣の確立	・欠席、遅刻、早退の回数を抑える。	B	B	・基本的生活習慣に関して課題の残る生徒に、継続指導する。 ・スタディサプリを活用し、自主的に学習に取り組むことを習慣化できるよう指導する。 ・選択したコース、系列の授業に、進路実現の意識をもって取り組むよう継続的に指導していく。
		・時間厳守、チャイム着席を徹底させる。	B		
		・頭髮服装指導で、身だしなみの大切さを理解させる。規範意識の向上を図り、マナーやルールを守れる生徒を育てる。	B		
	家庭学習の習慣化と学力向上	・家庭学習の定着に向け、課題や小テストを設ける。	B		
		・授業等で I C T 端末（スタディサプリなど）を積極的に活用して、学力向上を図る。	B		
		・各種検定試験を推奨し、学校・家庭を問わず学習習慣を身につけさせる。	B		
	進路指導の充実	・授業を通して、自分の将来を考える機会をつくり、科目、コース、系列選択の一助とする。	A		
		・生徒個々のニーズに沿った進路実現に向け、卒業生や進路に関する講話等、指導の場面を設ける。	A		
2 学年 ・ 年次	基本的生活習慣の徹底	・欠席、遅刻、早退の回数を抑える。それぞれ5回以下を目標とする。	B	B	・基本的生活習慣、頭髮服装、規範意識について、一部の乱れのある生徒には、家庭と連携を図り、継続して指導する必要がある。 ・入学試験や就職試験対策としてスタディサプリをより活用し、家庭学習に取り組むように働きかけていく必要がある。
		・時間厳守、チャイム着席を徹底させる。	C		
		・頭髮服装指導により身だしなみを整えさせる。	C		
		・規範意識の向上を図り、マナーやルールを守れる生徒を育てる。違反件数を昨年度以下に抑える。	C		
	家庭学習の習慣化と学力向上	・家庭学習の定着に向け、課題や小テストを設け、学力向上を図る。	B		
		・授業等で I C T 端末（スタディサプリなど）を積極的に活用して、学力向上を図る。	B		
		・各種検定試験を推奨し、学校・家庭を問わず学習習慣を身につけさせる。1人1つ以上の資格取得を目指す。	B		
	進路指導の充実	・各授業や模試などを通して、自分の将来を考える機会をつくり、進路実現の一助とする。	A		
		・生徒個々のニーズに沿った進路実現に向け、進路に関する講話、ガイダンスを年間2回程度実施する。 ・生徒が希望進路に向けて計画を立てるため個人面談を行うとともに、クラス掲示や資料配付を充実させる。	A		
3 学年 ・ 年次	最高年次としての自覚と基本的生活習慣の確立	・マナーやルールを遵守し、社会人としての責任ある行動や言動ができるように育成する。	B	A	・生活面は、日常的に声掛けを継続する。特に交通事故には十分に注意を促す。 ・進路決定後の進路変更が生じないよう、前期のうちに保護者と話を合わせておく。 ・学力向上や資格取得の推奨に努める。 ・家庭とは小さな事でも情報を共有し、相互理解と連携を図る。
		・時間厳守・期限厳守を徹底させる。	A		
		・自転車・バイク・自動車の交通安全指導の徹底と事故防止に努める。	B		
	進路実現のための学習指導と進路指導の強化	・授業等で I C T 端末を積極的に活用して、学力向上を図る。	A		
		・進路希望にあわせた指導の充実を図り、各種模擬試験や学校説明会、オープンキャンパスへの積極的な参加を促す。	A		
		・進路に関する個人面談や面接指導を充実させる。	A		
	生徒との積極的な関わりと家庭との連携	・各種資格・検定試験等への積極的な参加をよびかける。	B		
		・家庭と連携・情報の共有化を図り、保護者との相互理解の上で進路・生徒指導を円滑に進め進路実現を目指す。	A		

※評価規準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった